

●滞在型ミニリゾート

延岡市から北浦町にかけての海岸は、南北浦海岸と呼ばれ、「日豊海岸国定公園」に指定されている。多くの小島や岩礁が点在、「日向松島」と言われるほどの景勝地である。大きな川がないため海水が澄み、海中には大型テールブルサングの群生やコバルトスズメダイ、チョウチョウウオなどの熱帯魚が見られる。一九七四（昭和四十九）年、同海岸の一部が海中公園に指定された。

北浦町の中心・古江から南東四^キ、宮野浦の南〇・五^キに浮かぶ周囲約四^キの小島が「高島」。名前の由来は明確でないが、島の南側が海面から七十七^{メートル}のがけとなる険しい地形、外洋に面する東側もがけになっており、それが高島と呼ばれるゆえんかもしれない。

島の南西部は砂浜。ハマユウなどが自生、台地はピロウやアカメガシワ、ハマヒサカキ、シ

ヤリンバイなどが混生する広葉樹林となっている。島に自生するピロウは約二百本。自生地の北限で、学術上の価値が認められ、三〇（同五）年、国指定天然記念物になった。指定の際、県は公益上やむを得ないこと以外は現状を変更してはならないことを条件とされた。

高島の周辺には「耳ほげ」「ヒラゼ」「烏帽子」など大小、数多くの岩礁があり、釣りの好ポイントが多い。一年を通して県内外から釣り客が訪れている。

高島と並んで北浦町の人気スポットが下阿蘇海岸にある「下阿蘇浜木綿村」。延岡市から国道388号を車で約三十分。波も穏やか。砂浜が広がり、夏は海水浴場が開設され、家族連れでにぎわう。

町が「下阿蘇浜木綿村」と名づけて開発。全面オープンが九八（平成十）年五月。運営は第



高島に自生するピロウ。樹高の低いのが特徴

三セクターの北浦総合産業。宿泊用キャビン十五棟、オートキャンプ場のほか、海水を生かしたドルフィン館にウオーターライダー、トレーニンブルームなどを設置、さらに地どれの魚をはじめ、海産物などを即売する道の駅「北浦」にはミニシアターなどがあり、滞在型のミニリゾートとなっている。

浜木綿村だけで昨年は年間十六万七千人が訪れた。町全体でも増加の傾向が続いている。これは観光客のアウトドア志向が強まり、さらに道路の整備もあるが、地域おこしに対する町民の努力を忘れてはならない。北浦は今、「楽しむ・やすらぐ・うるおう」レクリエーション基地へと脱皮しようとしている。

前田博仁